



2026年3月期（第58期） 第2四半期 決算説明会資料

加賀電子株式会社
＜東証プライム市場：8154＞
2025年11月27日



KAGA ELECTRONICS

目次



- 2026年3月期第2四半期 決算概要 P- 2～

2026年3月期決算 Q2
サマリー/業績ハイライト/セグメント・会社別概況
バランスシート/キャッシュ・フロー
2026年3月期 通期業績予想
株主還元

- 経営トピックス P- 23～

2026年3月期Q2の総括
EMSビジネス タイ第3工場建設
自社開発の生産設備
協栄産業連結子会社化の進捗状況
加賀電子にない協栄産業の強み事業

- 参考資料 P- 29～

2026年3月期Q2 サマリー



2026年3月期 Q2（4-9月）実績

	売上高	営業利益	中間純利益
Q2 実績	2,889億円	130億円	150億円
前年同期比	+299億円	+15億円	+70億円

- **売上高から純利益まで前年同期を上回り「増収増益」**。Q1からの上振れモメンタム変わらず
- 売上高：電子部品事業（EMSビジネス）、情報機器事業（パソコン販売、ソフト販売）、その他事業（アミューズメント機器販売）が好調維持、Q2（7-9月）より協栄産業が加わり、前年同期比増収
- 営業利益：**増収・利益率改善による粗利増**が販売増・企業買収による経費増を上回り、前年同期比増益
- 企業買収は収益拡大に寄与するも、**買収影響を除いても「増収増益」を達成**

2026年3月期 業績予想

	売上高	営業利益	当期純利益
今回予想	5,950億円	255億円	260億円
前回予想比	+210億円	+15億円	+18億円
前年比	+472億円	+18億円	+89億円

- Q2までの好調な業績進捗を踏まえ、**売上高から当期純利益まで今期二度目の上方修正**。
- 当期純利益には、企業買収に伴う「負ののれん発生益（72億円）」を織り込む
- **「中間配当・期末配当60円、年間配当1株当たり120円」の前回予想を据え置く（前期比10円増配）**
※24年10月に株式分割（1:2）を実施。前期比10円増配は、分割調整後の年間配当金として算出

株主還元

2

加賀電子の石原でございます。
平素よりご支援、お引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。

また、本日は弊社の決算概要説明を御視聴頂き、誠にありがとうございます。
それでは、私より、2026年3月期 中間決算の概要について、ご説明申し上げます。

2026年3月期 第2四半期の実績です。

売上高は、前年同期比299億円増収の2,889億円となりました。

電子部品事業では、主要顧客の在庫調整に回復の兆しが見られたことからEMSビジネスを中心に増収となりました。パソコンやセキュリティソフトの販売などによる情報機器事業、米国向けアミューズメント機器の販売などのその他事業も、好調を維持しました。

また、第2四半期より協栄産業株式会社が弊社グループに入り、増収に寄与しました。

営業利益は、前年同期比15億円増益の130億円となりました。

販売増に加え、販売ミックス良化により売上総利益率が0.5ポイント良化し13.7%に改善したことで、売上総利益は前年同期比54億円の増益となりました。

販売増による変動費増加や協栄産業のグループ入りにともなう販管費の増加もありましたが、売上総利益の増加がこれを上回り、営業利益も増益で着地いたしました。営業利益率も0.1ポイント良化しております。

経常利益は、為替差損の減少などにより営業外損益が改善したことから前年同期比21億円増益の134億円となり、

親会社株主に帰属する中間純利益につきましては、企業買収に伴う負ののれん発生益や

投資有価証券売却益の計上などから、前年同期比70億円増益の150億円となりました。売上高ならびに、売上総利益から親会社株主に帰属する中間純利益まで全ての段階利益において、第1四半期に引き続いての「増収増益」を達成いたしました。また、協栄産業の買収にともなう業績の嵩上げや負ののれん発生益を除いても、前年同期比「増収増益」で着地しております。

続いて2026年3月期の通期業績予想です。

協栄産業のグループ入りにもない、第2四半期以降の協栄産業の業績見通しや企業買収にともなう負ののれん発生益などを織り込み、2025年8月7日に業績予想の上方修正をしております。

当中間期においては、上半期の好調な業績進捗を織り込み、前回修正内容から更に、売上高で210億円の増収、営業利益で15億円の増益を見込み、今期二度目となる業績予想の上方修正をいたしました。

今回の修正により、2026年3月期の業績については、売上高は前年比472億円増収となる5,950億円、営業利益は前年比18億円増益の255億円、当期純利益は前年比89億円増益となる260億円と、通期においても「増収増益」を見込んでおります。

株主還元について、ご説明いたします。

2026年3月期の配当予想については、本年8月7日に、業績予想の上方修正とともに、1株あたり110円から120円に増額修正をしております。

当中間期においては、1株あたり120円の配当予想を据え置きといたしました。

2026年3月期Q2 業績ハイライト



(単位：百万円)	Q2実績（4-9月）					通期業績予想（2025/8/7公表）		
	FY2025/3	構成比	FY2026/3	構成比	前年同期比	FY2026/3	構成比	進捗率
売上高	259,064	100.0%	288,959	100.0%	11.5%	574,000	100.0%	50.3%
売上総利益	34,133	13.2%	39,544	13.7%	15.9%	—	—	—
販売費及び一般管理費	22,631	8.7%	26,495	9.2%	17.1%	—	—	—
営業利益	11,501	4.4%	13,049	4.5%	13.5%	24,000	4.2%	54.4%
経常利益	11,278	4.4%	13,443	4.7%	19.2%	23,800	4.1%	56.5%
親会社株主に帰属する中間純利益	7,941	3.1%	15,033	5.2%	89.3%	24,200	4.2%	62.1%
EPS（円）	151.15	—	293.86	—	94.4%	488.45	—	—
為替レート 円/US\$	152.63	—	146.04	—	—	140.00	—	—

(注)：1. 為替による影響額は、売上高が△4,606百万円、営業利益が△102百万円です。
2. 2024年10月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。
前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「EPS（1株当たり中間純利益）」を算出しております。

次ページの業績ハイライトは、ただいまご説明した通りであります。

当中間期におけるEPS（1株当たり中間純利益）は、293円86銭となり、前年同期比で94.4%の増額となりました。

また、当期における期中平均為替レートは、ドル・円で146円04銭となっており、前年同期の152円63銭と比べて、6円59銭円高に振れております。

一方、通期業績予想における想定為替レート140円に対しては、足元では想定より円安の状況となっております。

為替の変動による前年同期比の影響額は、

売上高で約46億円の減収、営業利益では約1億円の減益影響でありましたが、そのマイナス影響も吸収した上での「増収増益」の達成という結果でありました。

2026年3月期Q2 セグメント別業績



(単位：百万円)		Q2実績（4-9月）				通期業績予想（2025/8/7公表）		
		FY2025/3	利益率	FY2026/3	利益率	前年同期比	FY2026/3	利益率 進捗率
電子部品	売上高	225,866		247,788		9.7%	501,000	49.5%
	セグメント利益	8,679	3.8%	8,967	3.6%	3.3%	17,500	3.5% 51.2%
情報機器	売上高	18,633		21,571		15.8%	45,000	47.9%
	セグメント利益	1,392	7.5%	1,616	7.5%	16.1%	3,500	7.8% 46.2%
ソフトウェア	売上高	1,471		1,679		14.1%	3,000	56.0%
	セグメント利益	256	17.4%	165	9.8%	△35.6%	500	16.7% 33.1%
その他	売上高	13,093		17,919		36.9%	25,000	71.7%
	セグメント利益	1,094	8.4%	2,122	11.8%	94.0%	2,500	10.0% 84.9%
合計	売上高	259,064		288,959		11.5%	574,000	50.3%
	セグメント利益	11,501	4.4%	13,049	4.5%	13.5%	24,000	4.2% 54.4%

(注)：セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。

4

セグメント別の業績です。

電子部品事業では、まず主力の部品販売ビジネスで、長期化が懸念されていたサプライチェーンにおける在庫調整に回復の兆しがみられ、また、協栄産業の買収効果も加わり前年同期比で増収増益となりました。EMSビジネスは、一部顧客における需要減少もありましたが、医療機器や空調機器向け、産業機器向けは引き続き堅調に推移し、増収増益となりました。これらの結果、電子部品事業全体では売上高は前年同期比219億円増収の2,477億円、セグメント利益では前年同期比2億88百万円増益の89億67百万円となりました。

情報機器事業では、教育機関向けパソコン販売は販売数量の増加などにより好調に推移し、量販店向けは主要PCメーカーにおける商品ラインナップ拡充に、Windows10サポート終了にともなう買い替え需要の追い風も加わり、堅調に推移しました。

比較的採算性の高いセキュリティソフトの販売も好調を維持し、増益に貢献しました。

またLED照明設置ビジネス、太陽光パネルなどの電気設備工事ビジネスも堅調に推移し、これらの結果、売上高は前年同期比29億円増収の215億71百万円、セグメント利益は前年同期比2億24百万円増益の16億16百万円となりました。

ソフトウェア事業では、ゲーム向けおよびアミューズメント機器向けCG映像制作の受託拡販に取り組み、売上高は回復し、前年同期比2億円増収の16億79百万円となりました。一方、セグメント利益では第1四半期の営業損失は解消しましたが、前年同期を下回る結果となりました。

その他事業では、前連結会計期間より旺盛な需要が続くアミューズメント機器ビジネスが、国内および米国向けに好調を維持しました。また、PC製品およびPC周辺機器のリサイクルビジネスも堅調に推移しました。

これらの結果、売上高は前年同期比48億円増収の179億19百万円、セグメント利益は前年同期比10億円増益の21億22百万円となり、セグメント利益率も8.4%から11.8%に向上いたしました。

8 ページ～ 9 ページにも、事業セグメント別の記載がありますので、併せてご覧ください。

2026年3月期Q2 会社別業績



Q2実績（4-9月）

(単位：百万円)		FY2025/3	構成比	FY2026/3	構成比	前年同期比
加賀電子	売上高	148,154	100.0%	164,858	100.0%	11.3%
	売上総利益	23,685	16.0%	26,947	16.3%	13.8%
	営業利益	9,689	6.5%	11,121	6.7%	14.8%
加賀FEI	売上高	96,783	100.0%	97,943	100.0%	1.2%
	売上総利益	8,678	9.0%	8,873	9.1%	2.2%
	営業利益	991	1.0%	1,022	1.0%	3.1%
エクセル	売上高	14,127	100.0%	13,028	100.0%	△7.8%
	売上総利益	1,735	12.3%	1,670	12.8%	△3.7%
	営業利益	693	4.9%	647	5.0%	△6.7%
協栄産業	売上高	—	—	13,128	100.0%	—
	売上総利益	—	—	2,058	15.7%	—
	営業利益	—	—	187	1.4%	—
合計	売上高	259,064	100.0%	288,959	100.0%	11.5%
	売上総利益	34,133	13.2%	39,544	13.7%	15.9%
	営業利益	11,501	4.4%	13,049	4.5%	13.5%

(注)：1. 売上総利益および営業利益については、4社間での連結調整前の数値を記載しております。
2. 協栄産業は、2025年7月18日付で連結子会社となりました。

5

続いて会社別の業績について、ご説明いたします。

従来からの加賀電子グループにおきましては、売上高については、電子部品事業において、サプライチェーンにおける在庫調整に回復の兆しがみられたこと、EMSビジネスにおいても医療機器向け、空調機器向け、産業機器向けなどが好調に推移したこと、また、その他事業においてアミューズメント機器ビジネスが好調を維持したことなどにより、前年同期比で167億円の増収となりました。増収に加えて、販売ミックスの良化により売上総利益率も0.3ポイント向上し、売上総利益も前年同期比で32億円の増益となりました。人件費や物流費の増加による販管費増を補い、営業利益でも前年同期比14億円の増益で着地いたしました。

加賀FEIグループにおいても、加賀電子グループと同様に、前年同期比で11億円の増収、販売ミックスの良化により売上総利益率も0.1ポイント向上し、売上総利益は前年同期比約2億円の増益となりました。人件費や物流費に加え訴訟費用の増加による販管費の増加がありましたが、営業利益では僅かながらも増益を確保いたしました。

エクセルグループにおいては、販売ミックス良化により売上総利益率を0.5ポイント向上させたものの、売上高が前年同期比10億円の減収となったことから、営業利益においても僅かながら減益で着地いたしました。

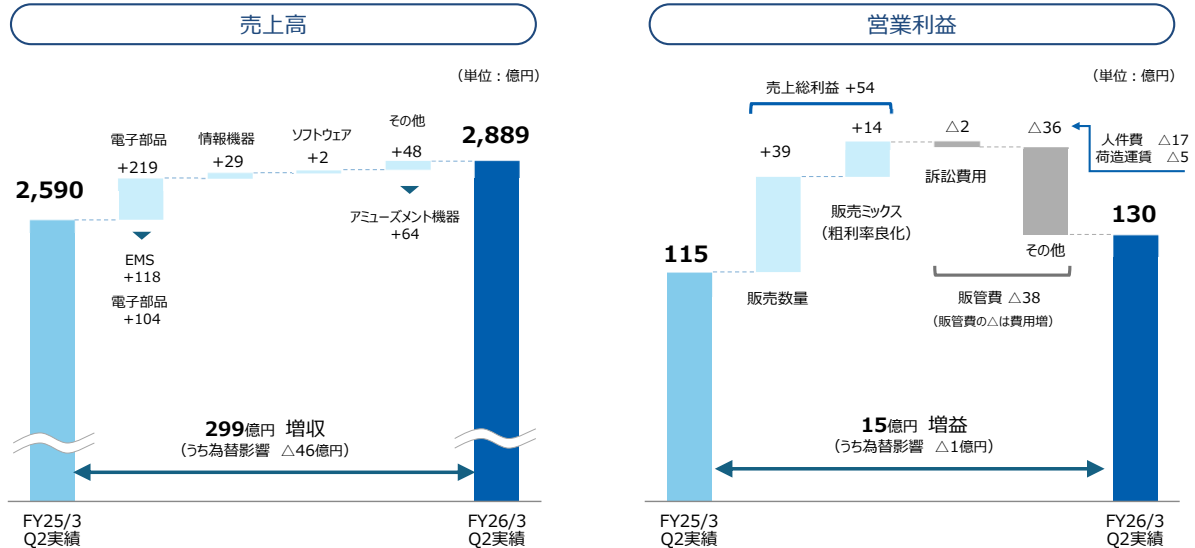
第2四半期よりグループに入った協栄産業グループにおいては、3か月間の実績として売上高131億円、売上総利益20億円、営業利益1億87百万円を計上し、連結業績における「増収増益」に貢献いたしました。

10ページ～12ページには、直近3か月間のクォーター情報がございます。

第2四半期より協栄産業グループの業績数字が加算され、増収増益に寄与しておりますが、

協栄産業グループの数字を除いても、直近 3 ヶ月間の実績は第 1 四半期に引き続いて、前年同期比「増収増益」を維持しております。
併せてご覧ください。

2026年3月期Q2 売上高/営業利益 変動要因（項目別）



6

売上高・営業利益における、前年同期比の変動要因について、ご説明いたします。

売上高では、在庫調整に回復の兆しが見られる部品販売ビジネスやEMSビジネスが好調に推移した電子部品事業で219億円の増収、国内および米国向けに好調を維持したアミューズメント機器ビジネスで64億円の増収など、全ての事業セグメントにおいて増収を確保したことで、為替変動の影響による減収46億円を跳ね返して、トータルの売上高は前年同期比299億円の増収で着地いたしました。

営業利益では、加賀FEIにおける訴訟費用2億円の増加、協栄産業のグループ入りにともなう費用増を含む、人件費や物流費の増加など、販管費は前年同期比で38億円増加しましたが、販売数量の増加、販売ミックスの改善にともなう粗利率の良化による、売上総利益の増額54億円でカバーし、営業利益では前年同期比15億円の増益にて着地いたしました。

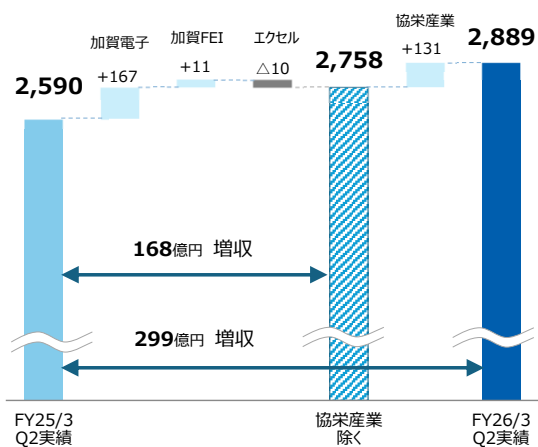
7ページでは、会社別に分解してありますので、ご参照ください。

2026年3月期Q2 売上高/営業利益 変動要因（会社別）



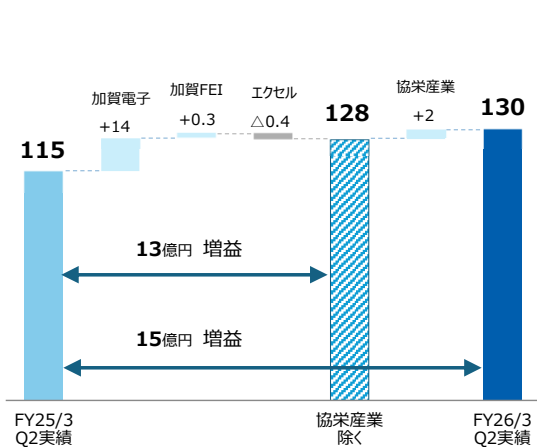
売上高

（単位：億円）



営業利益

（単位：億円）



（注）：営業利益については、4社間での連結調整前の数値を記載しております

2026年3月期Q2：電子部品事業

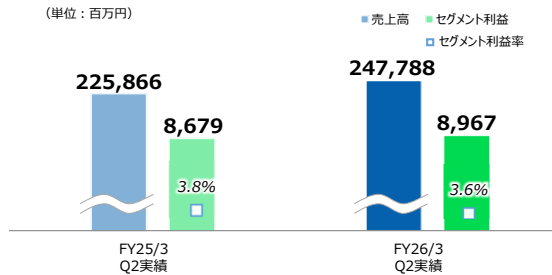


Q2実績（4-9月）

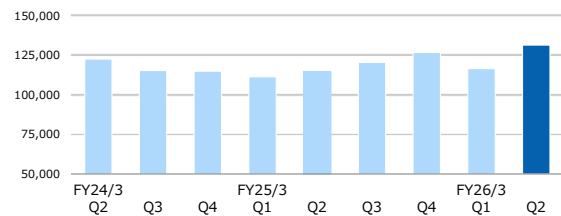
（単位：百万円）	FY2025/3	FY2026/3	前年同期比	
売上高	225,866	247,788	21,922	9.7%
セグメント利益	8,679	8,967	288	3.3%
利益率	3.8%	3.6%	△0.2pt	

売上高・セグメント利益

（単位：百万円）



セグメント売上高（四半期推移）



主な増減要因

部品販売
ビジネス

- (+) Q2（7-9月）より協栄産業を連結化
 - (+) 新規商材を拡販
 - (-) 一部顧客において在庫調整が長期化
- これらの結果、前年同期比で「増収増益」

EMS
ビジネス

- (+) 医療機器向け、産業機器向けは好調
 - (+) 空調機器向けは回復基調が継続
 - (-) 車載向け、事務機向け一部顧客で需要減
- これらの結果、前年同期比で「増収増益」

2026年3月期Q2：情報機器事業

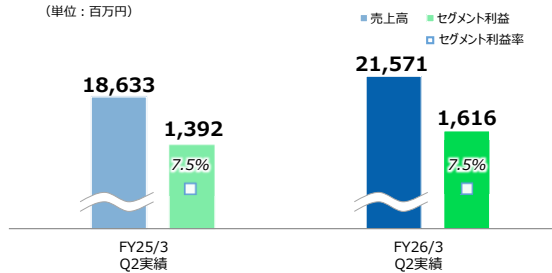


Q2実績（4-9月）

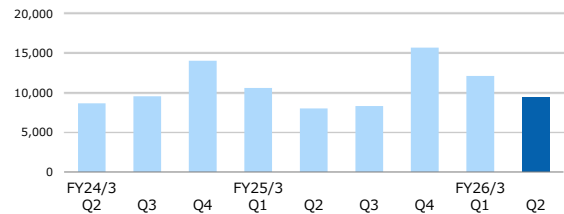
（単位：百万円）	FY2025/3	FY2026/3	前年同期比	
売上高	18,633	21,571	2,938	15.8%
セグメント利益	1,392	1,616	224	16.1%
利益率	7.5%	7.5%	+0.0pt	

売上高・セグメント利益

（単位：百万円）



セグメント売上高（四半期推移）



主な増減要因

- （+）新入学生向け需要期で教育機関向け販売が好調
 - （+）量販店向けは主要PCメーカーのラインナップ拡充により回復
 - （+）比較的高採算のセキュリティソフト販売が好調
 - これらの結果、前年同期比で「増収増益」
-
- （+）大手コンビニチェーン向けLED照明工事は堅調
 - （+）電気設備(受変電・太陽光パネル)工事の受注拡大
 - （-）先行投資として施工人員増強に伴い販管費増
 - これらの結果、前年同期比で「増収増益」

2026年3月期Q2 業績ハイライト（直近3ヶ月）

参考



(単位：百万円)	Q2実績（7-9月）		Q1実績（4-6月）		Q2実績（7-9月）		前年同期比	直前期比
	FY2025/3	構成比	FY2026/3	構成比	FY2026/3	構成比		
売上高	130,426	100.0%	138,086	100.0%	150,872	100.0%	15.7%	9.3%
売上総利益	17,152	13.2%	18,440	13.4%	21,104	14.0%	23.0%	14.4%
販売費及び一般管理費	11,200	8.6%	11,956	8.7%	14,539	9.6%	29.8%	21.6%
営業利益	5,951	4.6%	6,484	4.7%	6,564	4.4%	10.3%	1.2%
経常利益	5,232	4.0%	6,242	4.5%	7,200	4.8%	37.6%	15.3%
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,814	2.9%	4,614	3.3%	10,419	6.9%	173.1%	125.8%
EPS（円）	72.59	—	87.80	—	207.91	—	—	—
為替レート 円/US\$	152.63	—	144.59	—	146.04	—	—	—

(注)：1. 為替による影響額は、売上高が△2,411百万円、営業利益が△73百万円です。
2. 2024年10月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。
前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「EPS（1株当たり四半期純利益）」を算出しております。

2026年3月期Q2 セグメント別業績（直近3ヶ月）

参考



(単位：百万円)		Q2実績（7-9月）		Q1実績（4-6月）		Q2実績（7-9月）		前年同期比	直前期比
		FY2025/3	利益率	FY2026/3	利益率	FY2026/3	利益率		
電子部品	売上高	114,545		116,456		131,332		14.7%	12.8%
	セグメント利益	4,348	3.8%	4,227	3.6%	4,740	3.6%	9.0%	12.1%
情報機器	売上高	8,026		12,116		9,454		17.8%	△22.0%
	セグメント利益	753	9.4%	821	6.8%	795	8.4%	5.7%	△3.1%
ソフトウェア	売上高	840		591		1,087		29.4%	84.0%
	セグメント利益	221	26.3%	△42	△7.2%	207	19.1%	△6.1%	—
その他	売上高	7,013		8,921		8,997		28.3%	0.8%
	セグメント利益	633	9.0%	1,362	15.3%	760	8.5%	20.1%	△44.2%
合計	売上高	130,426		138,086		150,872		15.7%	9.3%
	セグメント利益	5,951	4.6%	6,484	4.7%	6,564	4.4%	10.3%	1.2%

(注)：セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。

2026年3月期Q2 会社別業績（直近3ヶ月）

参考



(単位：百万円)		Q2実績（7-9月）		Q1実績（4-6月）		Q2実績（7-9月）		前年同期比	直前期比
		FY2025/3	構成比	FY2026/3	構成比	FY2026/3	構成比		
加賀電子	売上高	74,532	100.0%	82,631	100.0%	82,227	100.0%	10.3%	△0.5%
	売上総利益	12,089	16.2%	13,294	16.1%	13,652	16.6%	12.9%	2.7%
	営業利益	5,266	7.1%	5,799	7.0%	5,322	6.5%	1.1%	△8.2%
加賀FEI	売上高	48,119	100.0%	48,835	100.0%	49,108	100.0%	2.1%	0.6%
	売上総利益	4,062	8.4%	4,327	8.9%	4,546	9.3%	11.9%	5.1%
	営業利益	160	0.3%	366	0.8%	655	1.3%	309.5%	78.7%
エクセル	売上高	7,774	100.0%	6,620	100.0%	6,408	100.0%	△17.6%	△3.2%
	売上総利益	949	12.2%	813	12.3%	857	13.4%	△9.7%	5.3%
	営業利益	424	5.5%	278	4.2%	369	5.8%	△13.1%	32.8%
協栄産業	売上高	—	—	—	—	13,128	100.0%	—	—
	売上総利益	—	—	—	—	2,058	15.7%	—	—
	営業利益	—	—	—	—	187	1.4%	—	—
合計	売上高	130,426	100.0%	138,086	100.0%	150,872	100.0%	15.7%	9.3%
	売上総利益	17,152	13.2%	18,440	13.4%	21,104	14.0%	23.0%	14.4%
	営業利益	5,951	4.6%	6,484	4.7%	6,564	4.4%	10.3%	1.2%

(注)：1. 売上総利益および営業利益については、4社間での連結調整前の数値を記載しております。
2. 協栄産業は、2025年7月18日付で連結子会社となりました。

貸借対照表サマリー



(単位：百万円)	2025/3末	2025/9末	前期末比 増減
資産の部			
流動資産	257,164	269,939	+12,775
現金及び預金	80,188	73,217	△6,971
受取手形及び売掛金	114,139	119,421	+5,282
棚卸資産	51,774	66,468	+14,694
その他	11,061	10,832	△229
固定資産	48,507	57,097	+8,590
有形固定資産	28,445	30,087	+1,641
建物及び構築物	9,839	10,896	+1,057
機械装置及び運搬具	11,034	10,965	△68
工具、器具及び備品	1,217	1,266	+48
建設仮勘定	5,940	6,120	+179
土地	413	837	+424
無形固定資産	1,738	1,879	+141
ソフトウェア	1,694	1,839	+145
その他	44	40	△3
投資等	18,323	25,130	+6,807
資産合計	305,671	327,037	+21,365

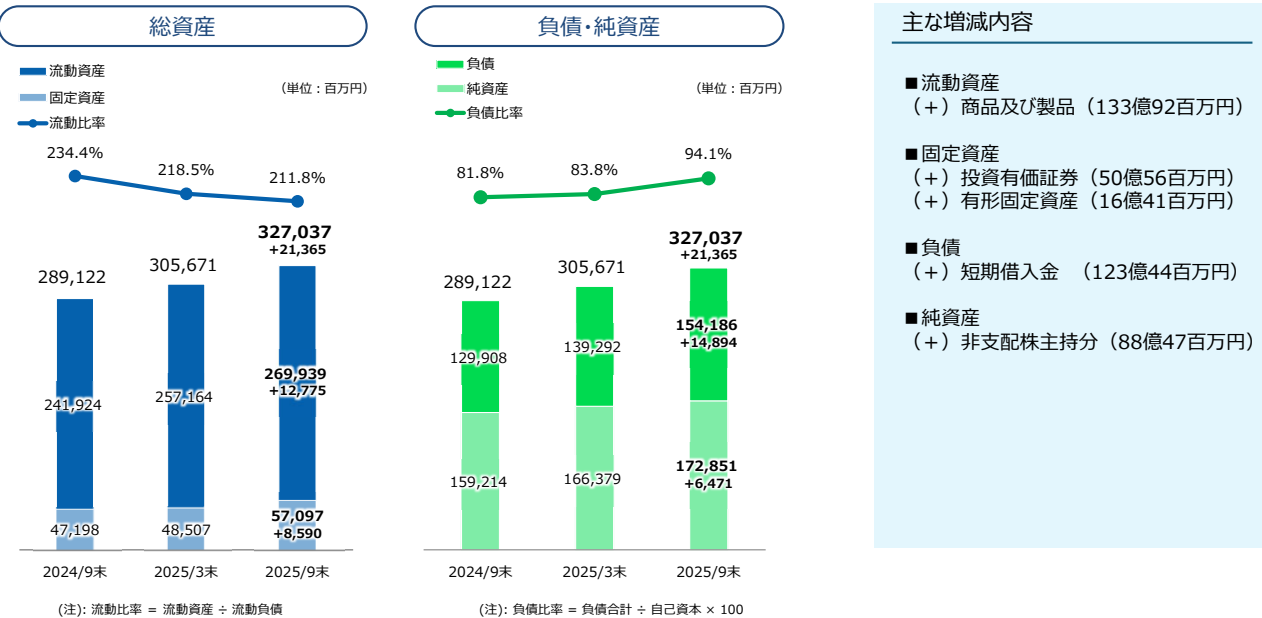
(単位：百万円)	2025/3末	2025/9末	前期末比 増減
負債の部			
流動負債	117,704	127,457	+9,752
支払手形及び買掛金	73,340	74,584	+1,244
短期借入金	14,890	27,235	+12,344
一年内償還予定社債	5,000	200	△4,800
その他	24,473	25,437	+963
固定負債	21,587	26,729	+5,141
社債	5,000	5,300	+300
長期借入金	5,500	8,508	+3,008
その他	11,087	12,921	+1,833
負債合計	139,292	154,186	+14,894
純資産の部			
株主資本	142,993	140,743	△2,250
資本金	12,133	12,133	—
資本剰余金	14,885	14,767	△118
利益剰余金	121,553	123,749	+2,196
自己株式	△5,579	△9,907	△4,327
その他の包括利益累計額合計	23,225	23,100	△125
非支配株主持分	160	9,007	+8,847
純資産合計	166,379	172,851	+6,471
負債及び純資産合計	305,671	327,037	+21,365

13

ここからは、貸借対照表の状況について、ご説明いたします。

資産、負債、ともに、第2四半期では協栄産業グループの数字を取り込んでいるため、前期末に比較して、各科目とも増加傾向にあります。

貸借対照表主要項目



14

はじめに、資産の部です。

流動資産については、現預金は資本政策の方針に基づく自己株式の取得による株主還元の実施、社債の償還などにより、前期末比で69億円減少しておりますが、棚卸資産や売掛債権などが協栄産業のグループ入りにともない増加し、前期末比で127億円増加した2,699億円になりました。

固定資産は、海外工場への設備投資や協栄産業のグループ入りにともなう有形固定資産、投資有価証券などの増加により前期末比で85億円増加した570億円となりました。資産合計では、前期末比で213億円増加した3,270億円となっております。

負債の部は、社債の償還にともなう減少、協栄産業買収資金の調達による短期借入金の増加、協栄産業のグループ入りにともなう買掛債務や長・短借入金の増加などにより前期末比で148億円増加し1,541億円となりました。

純資産の部は、自己株式の取得・売却による変動や利益剰余金の積み増し、協栄産業のグループ会社化にともなう非支配株主持分88億円の計上などにより、前期末比で64億円増加した1,728億円となりました。

流動比率は211.8%となっており、引き続き財務の健全性は保たれております。

自己資本比率は前期末の54.4%から4.3ポイント低下した50.1%となっており、財務規律、安全性、健全性を維持しつつ、資本効率を意識した経営を推進しております。

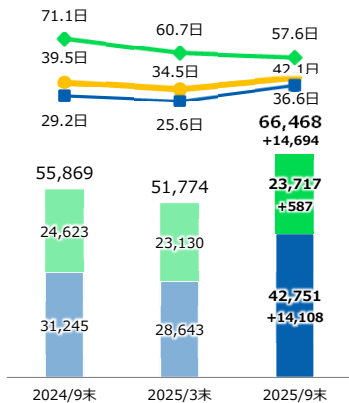
貸借対照表主要項目



棚卸資産

■ 棚卸資産高 (モノづくりビジネス)
■ 棚卸資産高 (商社ビジネス)
■ 在庫回転日数 (全社)
■ 在庫日数 (モノづくりビジネス)
■ 在庫回転日数 (商社ビジネス)

(単位: 百万円)

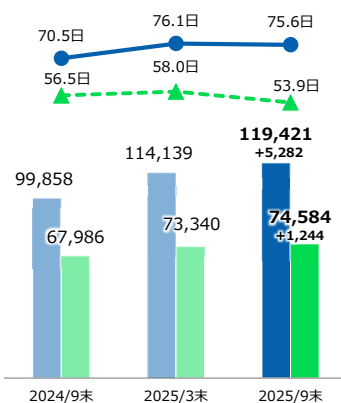


(注): 在庫回転日数 = 棚卸資産 ÷ 売上高 × 365 (9末は183日)

売上債権・仕入債務

■ 売上債権
■ 仕入債務
■ 売上債権回転日数
■ 仕入債務回転日数

(単位: 百万円)



(注): 1. 売上債権回転日数 = 受取手形及び売掛金 ÷ 売上高 × 365 (9末は183日)
2. 仕入債務回転日数 = 支払手形及び買掛金 ÷ 仕入高 × 365 (9末は183日)
3. 受取手形及び売掛金については、電子記録債権を含めた金額となっております。
4. 支払手形及び買掛金については、電子記録債務を含めた金額となっております。

棚卸資産の概況

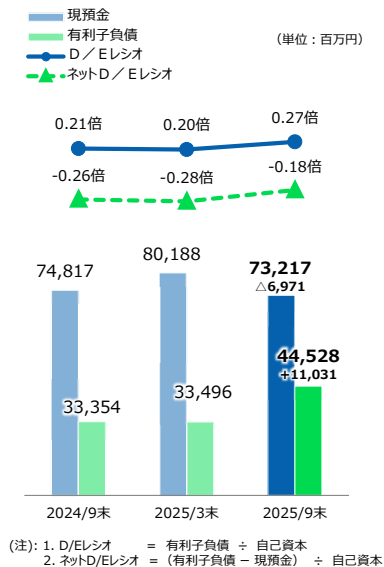
- 棚卸資産
・前期末比 / +146億円、+7.6日
- 商社ビジネス
・前期末比 / +141億円、+11.0日
主に協栄産業のグループ化による
- モノづくりビジネス
・前期末比 / +5億円、△3.1日
EMSビジネス増収に伴い在庫金額は微増も在庫効率向上で回転日数は減少

棚卸資産は、在庫調整に回復の兆しが見られる部品販売ビジネスの販売増にともなう増加、協栄産業のグループ入りにともなう増加などにより、前期末比で146億円増加した664億円となり、回転日数も42.1日と、やや増加傾向にあります。モノづくりのEMSビジネスにおける棚卸資産は、販売増にともない回転日数は減少傾向にあるため、商社ビジネスにおける在庫管理、適正化により一層の注力をして参ります。

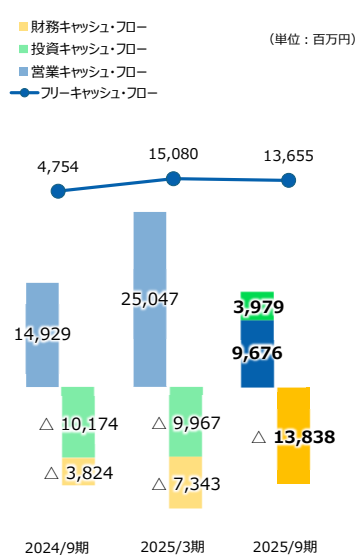
貸借対照表主要項目／キャッシュ・フロー



現預金・有利子負債



キャッシュ・フロー



キャッシュ・フローの概況

- 営業活動によるキャッシュ・フロー
96億76百万円の収入
主に税金等調整前中間純利益の計上による
- 投資活動によるキャッシュ・フロー
39億79百万円の収入
主に定期預金の払戻の収入による
- 財務活動によるキャッシュ・フロー
138億38百万円の支出
主に自己株式の取得による支出による

有利子負債は協栄産業買収資金の調達などにより前期末から110億円増加した445億円に、自己資本は自己株式の取得・消却などにより前期末から23億円減少した1,638億円となり、その結果、D/Eレシオは0.27倍となりました。

現預金残高は社債の償還や自己株式の取得による株主還元の実施などにより、前期末比で69億円減少した732億円となり、ネットD/Eレシオは－0.18倍となりました。

D/Eレシオ、ネットD/Eレシオ、いずれの値も低い水準で抑えられており、今後の事業拡大に向けた積極的な成長投資にも十分に耐えられる、財務基盤の安定性・健全性をしっかりと確保しております。

2026年3月期 業績予想

2026年3月期 業績予想



(単位：百万円)	FY2025/3		FY2026/3			前回予想比	前年比
	実績	構成比	前回予想 (25/8/7公表)	今回予想 (25/11/6公表)	構成比		
売上高	547,779	100.0%	574,000	595,000	100.0%	3.7%	8.6%
営業利益	23,601	4.3%	24,000	25,500	4.3%	6.3%	8.0%
経常利益	22,593	4.1%	23,800	25,500	4.3%	7.1%	12.9%
親会社株主に帰属する当期純利益	17,083	3.1%	24,200	26,000	4.4%	7.4%	52.2%
EPS (円) (注)	325.08	—	488.45	524.78	—	36.33	199.70
ROE	10.8%	—	14.6%	15.0%	—	0.4pt	4.2pt
年間配当金 (円) (注)	合計	110	120	120	—	0	10
	中間	55	60	60	—	0	5
	期末	55	60	60	—	0	5
為替レート	円/US\$	152.58	140.00	140.00	—	—	—

(注) 当社は、2024年10月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。
EPS、および年間配当金は、分割日以前についても当該株式分割の影響を考慮した金額を記載しております。

18

2026年3月期 通期業績予想について、ご説明いたします。

これまでご説明してきました通り、電子部品事業においては顧客の在庫調整に回復の兆しが見られ、部品販売ビジネス、EMSビジネスともに増収増益基調で進捗しております。

また、期初の時点でリスクファクターとして懸念された、米国関税政策のマイナス影響や、為替の円高進行も、これまでのところ大きく顕在化せず、結果として、売上、利益の両面において、社内計画を上回るペースで2026年3月期の間地点を折り返しました。

このような当第2四半期累計期間における好調な業績の進捗を勘案して、本年8月7日に修正しました2026年3月期連結業績予想数値を、

本年11月6日に

売上高 5,950億円、営業利益・経常利益 255億円、当期純利益 260億円と、再度上方修正いたしました。

なお、米国関税政策の動向や為替変動、地政学的リスクなど、当社グループを取り巻く事業環境は依然として先行き不透明であることから、第3四半期以降につきましては、前回予想時の見通しを変えておりません。

2026年3月期 セグメント別業績予想



		FY2025/3		FY2026/3				
		実績	利益率	前回予想 (25/8/7公表)	今回予想 (25/11/6公表)	利益率	前回予想比	前年比
(単位：百万円)								
電子部品	売上高	472,910		501,000	516,500		3.1%	9.2%
	セグメント利益	16,927	3.6%	17,500	18,500	3.6%	5.7%	9.3%
情報機器	売上高	42,652		45,000	45,000		0.0%	5.5%
	セグメント利益	3,307	7.8%	3,500	3,500	7.8%	0.0%	5.8%
ソフトウェア	売上高	3,387		3,000	3,500		16.7%	3.3%
	セグメント利益	509	15.1%	500	500	14.3%	0.0%	△1.9%
その他	売上高	28,829		25,000	30,000		20.0%	4.1%
	セグメント利益	2,707	9.4%	2,500	3,000	10.0%	20.0%	10.8%
合計	売上高	547,779		574,000	595,000		3.7%	8.6%
	セグメント利益	23,601	4.3%	24,000	25,500	4.3%	6.3%	8.0%

(注) セグメント利益は、各セグメントでは調整前の数値、合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。

セグメント別の通期業績予想につきましては、表の通りでございます。

株主還元



新中計における
株主還元方針
(2024/11/6公表)

- 中長期的な配当成長の目安：「**連結配当性向30~40%**」に引き上げ（従来方針は25~35%）
- 安定配当の目安：「**DOE（連結株主資本配当率）4%**」を新たに導入
- 機動的な還元施策：利益水準や資本効率性に応じて、**特別配当**や**自己株式取得**を機動的に実施

自己株式取得・消却
取得：2025/8/8
消却：2025/8/18

- CGコードの要請に沿った政策保有株式縮減の観点から売却意向があった**主要取引銀行4行の保有株式**を東京証券取引所の自己株式立会外買付取引（ToSTNeT-3）にて**総額144億円で全株取得**
- 取得した**492万株（発行済株式総数の9.4%）**は**全株消却**

		当初予想	前回予想	今回予想
		2025/5/7公表	2025/8/7公表	2025/11/6公表
配当予想 前回予想：2025/8/7を 据え置く	親会社株主に帰属する当期純利益（百万円）	16,500	24,200	26,000
	EPS（1株当たり純利益、円）	313.95	488.45	524.78
	1株当たり年間配当予想（円）	110.00	120.00	120.00
	うち特別配当	—	10.00	10.00
	連結配当性向	35.0%	24.6%	22.9%
	※負のれん72億円を除いた連結配当性向	—	35.0%	31.6%
	DOE（株主資本配当率）	3.9%	4.2%	3.9%
	※負のれん72億円を除いたDOE	3.9%	4.3%	4.0%

20

最後に、株主還元についてご報告いたします。

先ず還元方針については、昨年11月に公表しました「中期経営計画 2027」で策定した3つの骨子があります。

一つ目が、業績に連動した配当成長の目安として「配当性向30%から40%」、
二つ目が、安定配当の目安として「DOE 4%」、
そして最後が、機動的な還元施策として「特別配当・自社株買い」であります。

自社株買いにつきましては、8月に、取引銀行4行が保有する全株式を144億円で取得し、全株消却しました。発行済株式総数の9.4%にあたります。

また、同じく8月に、業績予想の上方修正に併せて、特別配当10円を公表いたしました。

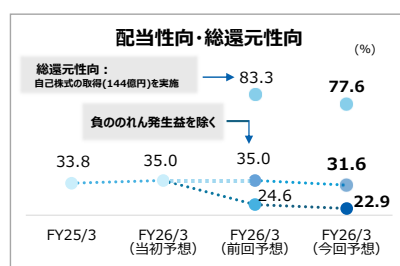
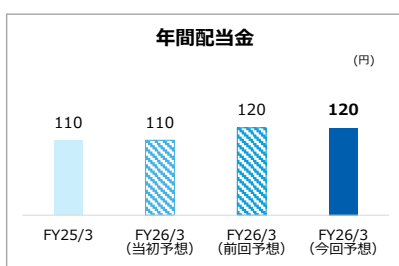
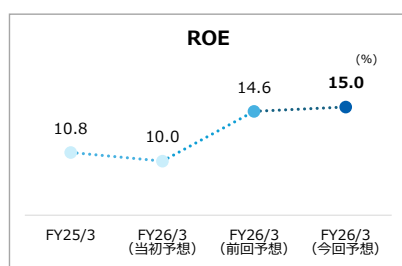
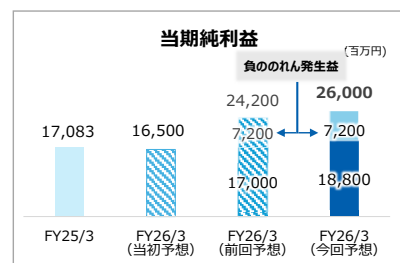
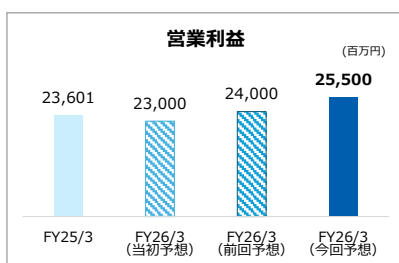
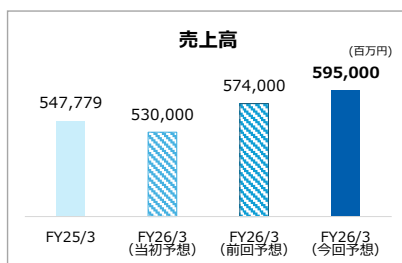
今般、今期二度目の業績上方修正を行いました。配当予想は据え置いております。
当期利益予想にはキャッシュインを伴わない「負ののれん発生益72億円」が含まれており、
表面上の配当性向ならびにDOEは還元方針に足りておりませんが、負ののれんを除いて
計算するとそれぞれ方針を満たしている、という考え方によるものです。

今後の業績の進展を踏まえて、株主還元は適切に対処してまいります。

2026年3月期 業績予想・財務指標の推移



Q2までの好調な進捗を踏まえ、通期業績予想を今期2回目の上方修正。



(注) 当社は、2024年10月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。年間配当金は、分割日以前についても当該株式分割の影響を考慮した金額を記載しております。

21

2026年3月期の業績予想、財務指標の推移となります。

売上高、営業利益、当期純利益、いずれも、協栄産業グループの加算分や負ののれん発生益を除いても、前年比で「増収増益」を達成する見通しです。

自己株式の取得・消却など資本政策の取り組みにより自己資本比率を50.1%に抑えるとともに、事業収益の拡大によりROEは15.0%と、財務の安定性・健全性の維持と資本効率の両立を図りながら、資本効率のより一層の向上を目指して参ります。

今後も引き続き、「中期経営計画 2027」の基本方針に沿って、より一層収益力の向上に努めるとともに、M&Aや生産設備・人的資本など事業基盤への投資を含む「成長投資」と、「株主還元」に重点配分する戦略的なキャッシュアロケーションを実践し、創出した資金の積極的な投資、活用に努め、経営目標としている「ROE 安定的に12%以上」の持続的な維持・向上を目指して参ります。

経営トピックス

加賀電子の門でございます。

平素は当社のIR活動にご支援、ご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。

それでは、2026年3月期上期の「経営トピックス」をご報告させていただきます。

2026年3月期Q2の総括



Q2 (4-9月)
実績

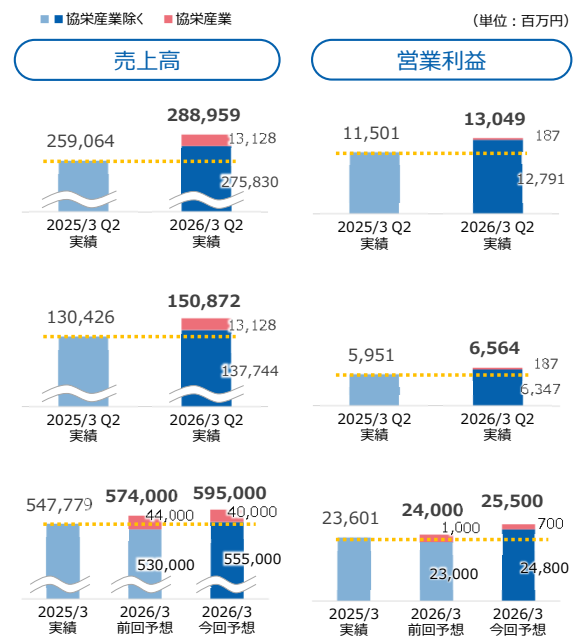
- 前年同期比「増収増益」
- 買収影響除いても「増収増益」

Q2 (7-9月)
実績

- 前年同期比「増収増益」
- 買収影響除いても「増収増益」

業績予想

- 今期二度目の「上方修正」
- 買収影響除いても「増収増益」



(注) : 営業利益については、グループ会社間での連結調整前の数値を記載しております。

23

先ずはじめに、11月6日に発表しました2026年3月期第2四半期決算に関して、石原から詳細な説明がありましたが、わたしから総括として、2点申し上げます。

一つ目は、前年同期比「増収増益」の決算であったということです。

7月から協栄産業が当社の連結に加わりましたが、その影響を除いても「増収増益」でありました。

二つ目は、今期二度目となる「上方修正」を行いました。

前回8月の修正は、協栄産業の連結化を織り込んだものでしたが、

今回は主に、上期における

加賀電子の上振れ分を織り込みました。

この修正においても、買収影響の有る無しに関わらず、前期比「増収増益」であります。

このように、「増収増益」かつ「計画比上振れ」で、新中計初年度となる2026年3月期の中間点を折り返しました。順調な決算でありました。

新工場建設の目的・狙い

- 自社開発の生産設備導入により、「自動化」「省人化」を徹底した高効率な生産体制を構築
- 完成品組立てライン新設により、米国向け等の顧客ニーズに対応
- 新工場含めタイ3工場で5年後には売上高500億円を目指す

<アマタナコン第1工場>



<アマタナコン第2工場>



アマタナコン第3工場



	アマタナコン第1工場	アマタナコン第2工場	アマタナコン第3工場
所在地	チョンブリー県アマタナコン工業団地	同左	同左
延床面積	5,250㎡	5,300㎡	4,400㎡
生産品目	エアコン用・車載用基盤実装/組立	事務機器用基盤実装	エアコン用・車載用基盤実装/組立 北米向け完成品・ユニット組立
稼働時期	2012年4月	2019年12月	2025年内目途
投資額	約46億円（累計）	約20億円（累計）	約13億円（初期投資）

24

次は、EMSビジネスに関するご報告になります。

11月4日の日経新聞を読まれた方もいらっしゃると思います。

当社は、年内稼働を目途に、タイで3つ目となる工場を準備中であります。

これまで中国で生産していた多くの製造業のお客さまが、「脱中国」ということで、タイをはじめとするアセアン地域へ生産拠点をシフトする動きに対応した施策であります。

新しい工場では、自社開発の生産設備を導入して「自動化」「省人化」に徹底的に拘ります。また、基板実装だけでなく完成品の組立てラインも新設いたします。

新工場を含めてタイの3つの工場で、5年後には売上高500億円を目指していきます。

自社開発の生産設備



中国大手設備メーカーと合併で、生産設備の開発/設計/製造を行うことで、
圧倒的なコスト競争力に加えて、高品質で高信頼性な基板実装のトータルソリューションを実現

局部半田槽

主な製品群



- ①1ヘッド機 ISF-300
- ②2ヘッド機 ISF-450-II
- ③4ヘッド機 ISF-450D
- ④4ヘッド機 ISF-450-4H
- 局部半田槽高速版
- ⑤局部フラックス塗装机

表面実装机

主な製品群



- ①CPM H2 : チップ部品実装
- ②CPM F2 : 異形部品実装
- ③CPM/FH : 小型チップ部品実装

検査機

主な製品群



- ①3D SPI : クリーム半田測定
- ②SMT後AOI機 :
実装部品外観検査
- ③半田槽前S-AOI :
手差し部品検査
- ④半田槽後AOI :
半田上がり検査、部品浮き検査

垂直高温炉

主な製品群



- ①Coating硬化炉
Coating後完全硬化
- ②Potting硬化炉
Potting後完全硬化
- ③高温老化試験炉
完成品高温老化試験

25

これに関連して、自社開発の生産設備について、少しご説明したいと思います。

当社は、2019年に、中国の設備機器メーカーと合併会社を立ち上げ、
はんだ槽や表面実装机、各種検査機などの、当社の基板実装の生産ラインにマッチした
生産設備を自社開発しています。

特に、当社のEMSビジネスは、「多品種小ロット生産」を得意としておりますので、
既製の大型生産設備ではオーバースペックであったものが、
自社開発の生産設備を導入することで、
身の丈にあった、コストパフォーマンスに優れた設備投資ができるようになりました。

クオリティ、コストの両面において当社の競争優位性を示す、大きな武器であります。

なお、スライドの上部に記載されているアルファベットは、「ハッテン」と読みます。
これは、自社開発の機器につけた製品ブランドです。
日本語の「発展する」の意味ですが、これらの機器を使って、
当社のEMSビジネスをさらに発展させる考えであります。
もちろん、これらの機器の外販も行っております。

協栄産業連結子会社化の進捗状況



買収のスキーム

- ① TOB実施：2025年7月18日、TOBにより協栄産業普通株式45.16%を取得。**既保有株と併せた持ち分は54.48%となり、連結子会社化**
 - ② 株式併合：同年9月29日開催の同社臨時株主総会にて株式併合を承認。**同年10月16日付で上場廃止**
 - ③ 100%子会社化：同年11月7日付で三菱電機保有株（558,958株）を全株取得、**100%子会社化**
- 買収価額：①～③を合わせて、総額107億円

協栄産業の事業内容

販売：半導体、電子デバイス、産業機器、情報通信機器、3Dプリンター、プリント配線板 など
開発：ソフトウェア、アプリケーション、システムソリューション、エンベデッドシステム、ICデザイン など
製造：情報通信機器 など

買収の狙い

- 半導体デバイス：重複しない製品を相互補完、当社が持つEMSネットワークを活用した付加価値創出
- 産業機器システム：当社のグローバルな対応力を活用してインドなど海外市場で販売拡大
- システム開発：当社の有するアセット（ハード、ソフト）と組み合わせ、ソリューション提案を拡大

26

次は、本年7月にTOBを実施いたしました協栄産業に関して、その後の進捗状況についてご報告いたします。

今回の買収スキームは、第1ステップとして、7月のTOBによる連結子会社化、第2ステップとして、株式併合および上場廃止、そして最終ステップとして、11月7日付で三菱電機が保有する株式を全株取得し、予定通り、当社の100%連結子会社となりました。

買収の狙いとしては、

- ①半導体デバイスでは、両社が持つ製品の相互補完による部品販売ビジネスの拡大と同社の顧客基盤を当社のEMSビジネスにつなぐこと、
- ②産業機器システムでは、当社が持つグローバルな営業ネットワークを活用して、海外市場で販売を拡大すること
- ③システム開発では、ハード、ソフト、顧客基盤といった当社が持つアセットとも連携させて、売上を伸ばすこと、

このように考えております。

産業機器システム事業

FA（機器、加工機、ロボット）、自動化システム、空調冷暖機器、3Dプリンタを販売

加工機&ロボットソリューション



ワイヤー放電加工機



ファイバーレーザー加工機



産業ロボット

搬送ロボットソリューション



Geek製『ムービングシステム』



無人搬送車『サウザー』

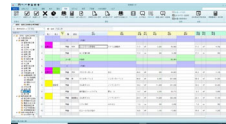


FEXA製『自律走行型搬送ロボット』

システム開発事業

建設、タクシー、流通業界に特化したシステム開発、システムインテグレーション、受託開発を実施

建設DXを推進する高性能・高品質なパッケージソフト



見積書作成システム「KYOEI COMPASS 2.0」



RC数量積算システム「FKS RC 2.0」

業界を熟知した技術者が提案するオーダーメイドソフト

開発事例



大成設備株式会社様

管理資料作成業務支援ツール

導入事例



新日本建設株式会社様

「高精度・スピード・汎用性」を兼ね備えた積算・見積ソフト



大末建設株式会社様

建設現場コスト管理一貫システムの構築

このスライドでは、協栄産業の子会社化によって、加賀電子グループに新たに加わった事業領域について、2点ご紹介いたします。

一つ目は、「産業機器システム事業」であります。

生産現場には必須な切削加工機やレーザー溶接機など各種加工機やロボットを幅広く品揃えしております。

また、製造や物流現場の自動化や効率化をサポートする、各種搬送ロボットも取り扱っております。

特に、海外市場において、加賀電子のもつ営業ネットワークを通じて拡販したいと考えております。

二つ目は、「システム開発事業」であります。

建設、タクシー、流通業界に特化した、システム開発やシステムインテグレーション、また、組込みシステムの受託開発などを行っています。

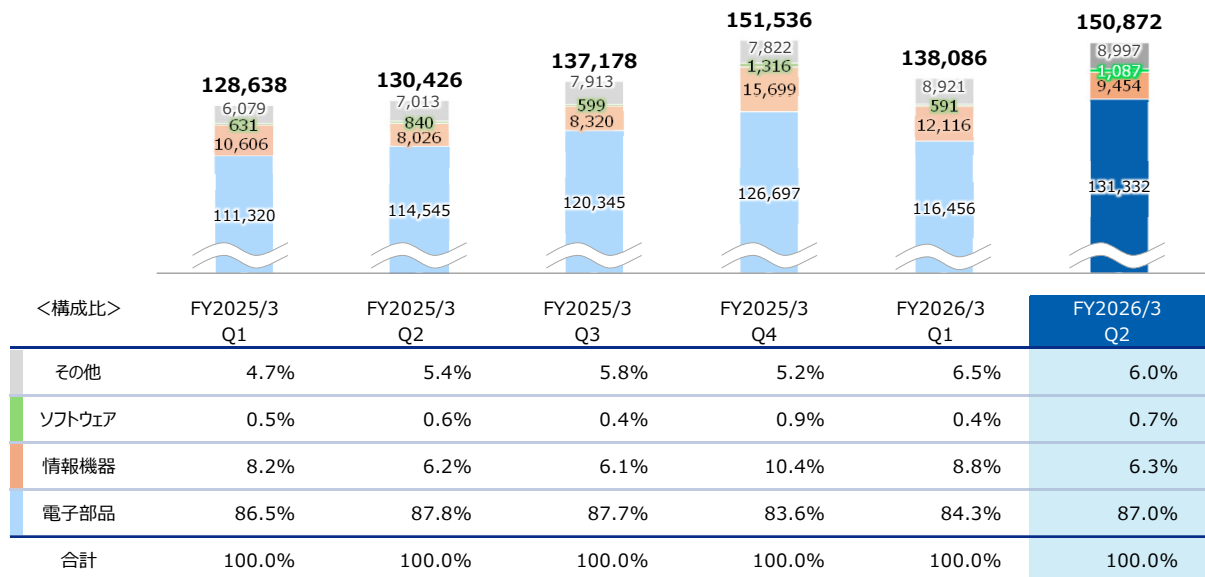
これらの業務を行うため、400人弱のエンジニアを自社内に抱えていることは大きな強みだと評価しています。

參考資料

セグメント別売上高（四半期推移）



（単位：百万円）



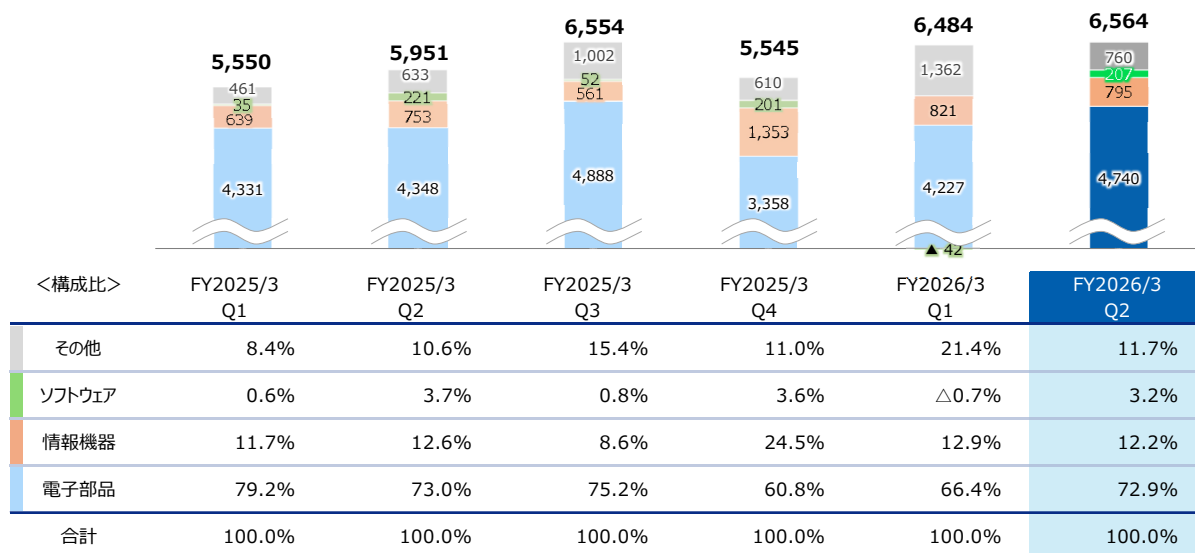
29

28ページ以降には参考資料として、3か月毎のセグメント別の売上高や営業利益、地域別の売上高の推移・グラフ、中期経営計画に沿ったセグメントによる任意開示の情報や、直近5年間の業績トレンド、為替レート・為替感応度の情報なども載せてございますので、併せてご覧いただければと思います。

セグメント別営業利益（四半期推移）



（単位：百万円）

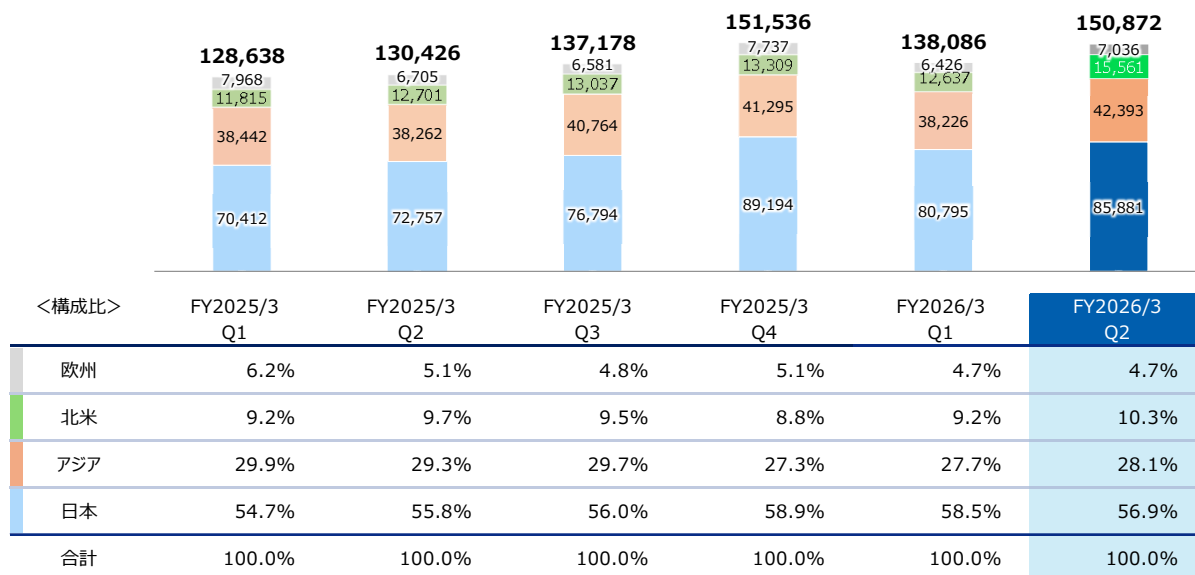


（注）セグメント利益は、各セグメントでは調整前の数値、合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。

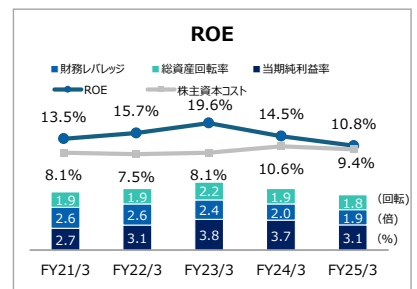
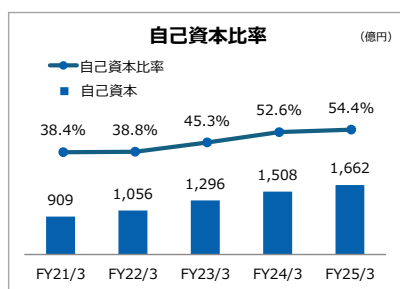
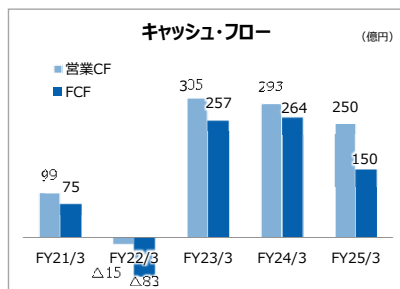
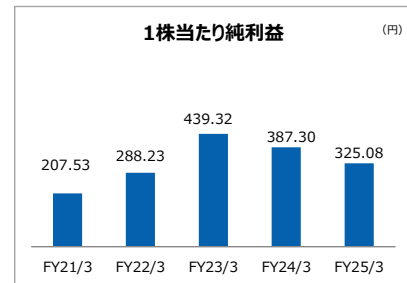
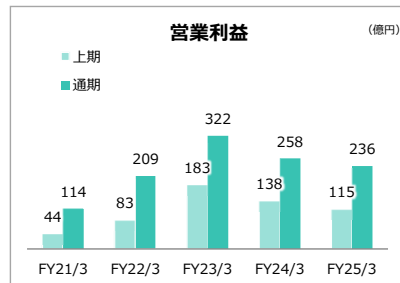
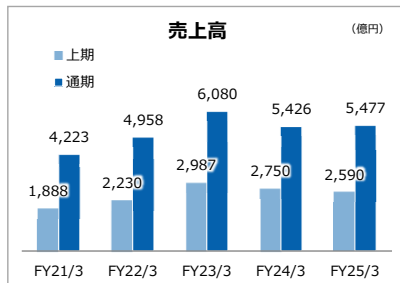
地域別売上高（四半期推移）



（単位：百万円）



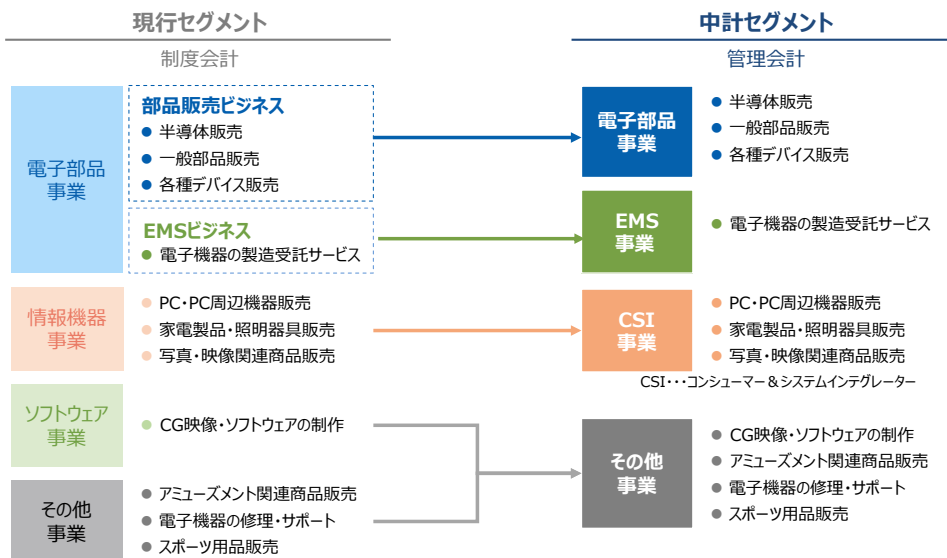
直近5年の業績トレンド



(注) 当社は、2024年10月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。
1株当たり純利益は、分割日以前についても当該株式分割の影響を考慮した金額を記載しております。

中期経営計画に伴うセグメント開示に関して

制度会計としての現行セグメントでの継続開示と併せ、中計に沿ったセグメントによる任意開示を行う



2026年3月期Q2 中計セグメント別業績



Q2実績（4-9月）

(単位：百万円)		FY2025/3	利益率	FY2026/3	利益率	前年同期比
電子部品	売上高	166,185		176,601		6.3%
	セグメント利益	5,019	3.0%	4,963	2.8%	△1.1%
EMS	売上高	64,981		76,791		18.2%
	セグメント利益	4,164	6.4%	4,513	5.9%	8.4%
CSI	売上高	18,633		21,571		15.8%
	セグメント利益	1,392	7.5%	1,616	7.5%	16.1%
その他	売上高	9,264		13,994		51.1%
	セグメント利益	847	9.1%	1,845	13.2%	117.8%
合計	売上高	259,064		288,959		11.5%
	セグメント利益	11,501	4.4%	13,049	4.5%	13.5%

(注) セグメント利益は、各セグメントでは調整前の数値、合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。

2026年3月期Q2 中計セグメント別業績（直近3か月）



(単位：百万円)		Q2実績（7-9月）		Q1実績（4-6月）		Q2実績（7-9月）		前年同期比	直前期比
		FY2025/3	利益率	FY2026/3	利益率	FY2026/3	利益率		
電子部品	売上高	85,489		81,847		94,753		10.8%	15.8%
	セグメント利益	2,521	2.9%	2,267	2.8%	2,695	2.8%	6.9%	18.9%
EMS	売上高	32,050		37,198		39,593		23.5%	6.4%
	セグメント利益	2,094	6.5%	2,235	6.0%	2,278	5.8%	8.8%	1.9%
CSI	売上高	8,026		12,116		9,454		17.8%	△22.0%
	セグメント利益	753	9.4%	821	6.8%	795	8.4%	5.7%	△3.1%
その他	売上高	4,860		6,923		7,071		45.5%	2.1%
	セグメント利益	586	12.1%	1,132	16.4%	712	10.1%	21.5%	△37.1%
合計	売上高	130,426		138,086		150,872		15.7%	9.3%
	セグメント利益	5,951	4.6%	6,484	4.7%	6,564	4.4%	10.3%	1.2%

(注) セグメント利益は、各セグメントでは調整前の数値、合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。

為替レート・為替感応度



	Q2実績（4-9月）		（参考）1%変動による影響額		FY2026/3前提 (円)
	FY2025/3	FY2026/3 (円)	売上高	営業利益 (百万円)	
米ドル	152.63	146.04	1,125	23	140.00
人民元	21.05	20.47	141	8	20.00
タイバーツ	4.27	4.46	164	10	4.50
香港ドル	19.55	18.69	106	2	19.00
ユーロ	165.95	168.06	76	0	160.00

『すべてはお客様のために』



問合せ先：IR・広報部

〒101-8629 東京都千代田区神田松永町20番地

TEL:03-5657-0106

FAX:03-3254-7131

E-mail : webmaster@taxan.co.jp

<https://www.taxan.co.jp>

■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

■ 本説明資料における表示方法

数値：表示単位未満を切り捨て

比率：円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入